

【第 1 号議案】

【 2025 年度 事業報告 】

▶総会

2025 年通常総会

【日 時】 2025 年 6 月 15 日(日)

PM14:00 から 15:00 まで

【場 所】 大阪市総合生涯学習センターとオンラインの併用開催

【出席者数】 全正会員数 21 名 うち 出席者数 8 名(うち委任状出席 4 名)

【議案】

第1号議案 2024 年度事業報告及び収支決算報告の件

第2号議案 2025 年度事業計画案及び収支予算案承認の件

第3号議案 役員選任の件

▶理事会

開催状況

今回は理事会上程の案件が無かった事と、理事各位のスケジュール調整が困難な事もあり、個別に理事の意見を聞くという事で、理事の意見を吸い上げた。

第 1 回理事会

【日 時】 2025 年 5 月 24 日(土)

【場 所】 オンライン会議

【出席者数】 理事 3 名(山本、村松、土居)、監査 1 名(堀)

▶事務局会議

スタッフミーティング/インドミーティング開催状況

毎月、スタッフ会議を定例開催した。遠方のスタッフもいるため、オンライン開催と併用で行った。

また今年度は、スタッフとしての行動指針を策定

▶コミュニケーション(広報)

■事業の概要

現地の様子を伝えること、ニランジャナセワサンガの認知度を高めること、イメージアップを図ることを目的として活動した。

■2025 年度の実績と成果

<実績と成果>

- ・HP/SNS(Facebook、Instagram)の更新頻度を増加させ、情報発信の強化を図った。
- ・会員向けニュースレターの発行 3 回実施(4 月、9 月 12 月)
- ・NPO 法人ドットジェイピー様よりインターンシップ受け入れを実施。7月/8 月に4名の大学生インターンを受け入れ、当会の活動に短期間でしたが、参画いただきました。

▶支援者サービス

■事業の概要

現地情報や活動の様子をもっと知りたいとの声に応えるために発行回数を年間 3 回実施した。

■2025 年度の実績と成果

<実績>

(1)サポーターへのニュースレター「ニランジャナ通信」発行

支援者へ現地の子どもの様子や各プロジェクトの進捗状況、イベントのお知らせなどを兼ねたニュースレターを会員及び協力者に向けて発送した。支援効果が教育の質にどのように影響しているかについて過去の成績データをもとに分析・可視化し会員へ発信した

(2)現地からのクリスマスカード発送

2025 年クリスマスカードと団体ニュースレターを合わせて、支援者のもとの郵送した。

▶スタディツアー事業

■事業の概要

インド・ビハール州ニランジャナスクールでの授業ボランティアや、近隣の村への訪問などを通し現地の住民たちと触れ合うことで、参加者の見聞を広めるとともに、現地での様々な体験を通じて、児童やスタッフと国境を越えた関係性を築くことを目的としたプログラムである。

■2025 年度の実績と成果

<実績と成果>

引率スタッフの人員不足により、スタディーツアーは実施できなかった。

▶イベント事業

■事業の概要

イベントへの参加及びブース出店を通し、広く団体の活動を知って貰う。

■2025 年度の実績と成果

<実績と成果>

ここ数年継続して参加させていただいているイベントに加え、今年度は身近に参加しやすいイベントということで、インド料理屋 Shama 様でのランチイベントを開催した。

I. 生涯学習フェスタ 2025 参加し、ブース出展を行なった。

II. 愛地球祭り 2025in 東京、京都、愛知参加し、ブース出展を行なった。

III. 8月のインド渡航報告を兼ねたクリスマスランチイベント in インド料理屋 Shama の実施

▶ 研修・セミナーの開催と参加

①大阪市総合生涯学習センターネットワークサロン

日時 2025 年 2 月 28 日(日) 14:00~16:00

場所 大阪市総合生涯学習センター

内容 「インドバーチャルツアー」

インドスジャータ村をディベンドラ氏や現地スタッフに案内して頂く。

又その機会に当団体の活動やインドビハール州の状況や教育事情の講演を行った。

今年度は、ニランジャナスクールの子どもたちが曼荼羅アートを紹介する企画を実施した。

②with the world 様とバーチャルツアー企画実施

日時 2025 年 5 月 26 日/28 日

場所 松蔭中学校・高等学校

内容 with the world 様運営のとも現地学校の子どもたちとオンラインで繋ぎ日本人参加者と交流をした。交流がきっかけで、引き続きインドの子どもたちと関わりたいとのことで、学校行事で学生らが主体的に資金を生み出し、絵本の購入と現地校に扇風機の寄付をいただいた。

③関西 NGO 協議会主催 ACTION from KANSAI つながる・学ぶ・変えるユースキャンプ 2025

日時 2025 年 9 月 13 日-15 日

場所 神戸しあわせの村(神戸市北区しあわせの村 1-1)

内容 本イベントは、「誰一人取り残さない社会」の実現を目指し、国際協力や社会課題に関心のある高校生～大学生世代を対象とした 3 日間のトレーニング合宿です。NGO/NPO 関係者との対話やワークショップ、現場事例の共有を通じて、参加者のリーダーシップや主体性を育み、将来の進路やキャリアの視野を広げることを目的として実施。当会は共催団体としてプログラムの企画実施、また代表の山本がコーディネーターとして参画した。

④大阪市生涯学習センター交流会参加

日時 2025 年 9 月 19 日

場所 大阪市生涯学習センター

内容 生涯学習センター内で活動されている団体様向けに当会の活動を紹介しました。

▶支援地域での活動

インド①▶学校教育

■事業の概要

「他者への思いやりの心を育てること」を教育の理念とし、現地パートナー団体ニランジャンナトラストと連携を取り合いながら、貧困地域において学校教育を提供している。学力向上及び自立支援授業、教科書配布、制服支給を無料で実施。(一部支払い可能なご家庭は学費や制服の費用を負担)

2003 年よりブッダガヤ周辺の 17 の村々の最貧困層の子どもたちを対象に、学校教育を支援しており、これまでに 18 年間、年間約 500 名の子どもたちに、無償支援。授業料が払えない、制服や教科書を買うことができない子どもたちのために支援を行う。

地域の教育レベルの底上げに力を入れていくと同時に、経済的貧困が理由で進学・就職ができないという子どもたちを支援するために、義務教育の期間を終えるまで、学校教育を提供している。

教育面で特に力を入れているのが、英語、一般教養、そして国際交流である。世界情勢を幅広くとらえ、国境を越えた視野を持つことができるよう、世界各国からのボランティアを受け入れ、授業やワークショップに積極的に参加することで実践的なコミュニケーション能力を培う。学校には、ヒンドゥー教、イスラム教、仏教、シーク教などさまざま宗教背景を持つ子どもたちが一同に学んでおり、すべてのカーストの子どもたちが分け隔てなく一緒に机を並べる。

■2025 年度の実績:

教育の質向上を目指し、生徒 150 名と教員 5 名に現状についてアンケート実施、現状を可視化した。結果を踏まえ教員と施策について議論し、「学校教育の質を向上するために何が必要であるか」を考えるきっかけを作ることを目的としました。

授業内容や先生とのコミュニケーションなどのソフト面では肯定的な意見が多く見受けられました。学校の理念に賛同した熱意ある教員を採用していることや、教員は保護者と頻繁に連絡を取り生徒理解に務めていることが、教育の質に表れていると推察されます。

ハード面の課題も確認されました。この状況を受けて、今年度より PC を使った情報処理の授業を開始しました。主に高学年を中心に週に 1 回、学校近くに開校した IT 教室にて、PC 操作など基本的なことを学んでいます。

学校設立から 20 年以上が経ち、改めて生徒や現地社会で何が必要とされているか、NGO 職員や教員と更に会話を増やし具体化していきます。そのために、まずは現地社会における学校の存在意義や目的などを改めて言語化していきます。

インド②▶孤児院(ドミトリー)

■2024 年度の状況:

・日本からの送金だけではやっていけない為、新規の孤児受け入れは行っていない。

インド③▶スジャータ・アシュラム(職業訓練校)

■事業の概要

女性の地位の向上に向け、家庭の中でも自信や誇りを持ち、強く生きていけるようにと始まったプロジェクト。2011 年にスジャータ・アシュラムが完成。

裁縫教室、メヘンディ教室、ペイント教室、識字教室を実施。

■2025 年度の状況:

チームピースチャレンジャーの支援と生産委託で、仕事としての縫製・収入と技術習得の機会を提供している。昨年度から継続し上記団体と連携を深め、イベント出店時に当団体で販売実施した。

インド④▶植林・有機農業

■事業の概要

乾燥・干ばつ被害が広がるビハール州南部に林や森を取り戻し、生物多様性を回復させるとともに地球温暖化を防止する。また、植林と有機農業の混合実績によりアグロフォレストリー(森をつくる農業)のモデルケースとなることを目的としたプロジェクト。開始から 7 年がたち、マンゴーが実るようになり、その他の木々も順調に育ってきている。植林地を動物侵入による被害から守るため、柵の建設を開始している。有機農業の畑にて、土作りと再耕作を計画した。

■2025 年度の実績と成果

・今年度実施報告なし。

インド⑤▶緊急災害支援

■事業の概要

昨年度スタッフ渡航直前に支援しているゴンガリア地域において洪水が発生し、緊急支援を行った。今年度現地渡航時に現状確認、一部家屋の復旧作業が継続しているが、日常生活を営める状況に達したため、今年度の支援は実施無し。

(昨年度実施事項)

【第1弾】・約 200 名分の軽食を寄付

【第 2 弾】医療スタッフの派遣/食料配布支給(各家庭 1 セット)

・お米 5kg/ 小麦 5kg / 野菜(じゃがいも・大豆など) / 油 / 塩 / お菓子(ビスケットなど)

■2025 年度の実績と成果

現地滞在中に発生したゴンガリア村での洪水被害への緊急対応として、パートナー団体 ニランジャントラストと当会スタッフが洪水発生後速に食料支給、数日後には瓦礫の撤去作業中に負傷される方や、不衛生な環境が続くことで感染症のリスクが高まっているため、薬やサプリメントの配布に加えて、衛生を保つための石鹸の配布も行を昨年度行った。

今年度現地渡航時に村を訪問し、一部影響は残っているが日常生活を取り戻しつつあることを確認。現地パートナーと議論した結果、今年度の緊急支援は不要と判断し実施無し。

インド⑥▶診療所

■事業の概要

政府の病院では、長時間待つことや、1 人の医師に対する患者数が多いことから質に問題がある。当診療所は、人々の治癒力を向上させるホメオパシー療法を用い、安価な値段で医療を提供している。

■2025 年度の実績と成果

・数回、訪問診療の実施

インド⑦▶IT 教室

■事業の概要

現地の IT リテラシー格差を是正するために、IT 教室を開校した

【内容】情報基礎(PC,OS など)、Office 操作(word,excel,ppt)

【対象】近隣の中高生、Niranjana school の生徒

■2025 年度の実績と成果

現地において、近年の政府による教育政策によりほとんどの子どもたちが学校に通うことができている。一方で周辺科目においては十分に行き届いていないのが現状。IT 教育に関しては、高額な私立学校で標準で提供されている一方で、一般的な学校では普及していない。現代社会において IT スキルは基礎教養になりつつある中、触れることがなく大人になっていく人も多いのが現地の実情。こういった IT 格差を是正することを目的とし、IT 教室を開校。

6 月より IT 教室を開始し、これまで約 60 名の生徒に IT 教育を提供。近隣の村だけでなく、遠隔地からの生徒も確認でき、広範囲にわたって IT 教育を提供した。今後は既存の基礎的な内容に加え、発展的な授業を整備し IT 格差の是正、またその先の就業支援も視野に活動を行っていく。